

島之内教会 トークショー

『信仰と共に歩んだ荒木和一』

～日本に映画を持ち込んだ大阪の実業家～

たけべよしのぶ

講師 武部好伸 (小説家東龍造)



荒木和一。大阪・心斎橋で舶来品雑貨商を営んでいた明治29(1896)年、24歳の時、渡米中に発明王エジソンに直談判し、映写機ヴァイタスコープを個人で輸入、そして難波で日本初のスクリーン投影式映画を上映したとされる人物です。

その8年前、16歳の時、信仰に厚い荒木安吉の養子になり、島之内教会で洗礼を受けていました。安吉は、火事で焼けた島之内教会再建の出資者です。和一は以降、同志社第11代総長となる牧野虎次、日本の「社会福祉の父」と呼ばれる留岡幸助ら著名な信者と親交を保ち、自らも島之内教会で日曜学校の校長や執事などを務めました。

英語が堪能で、ベストセラーとなったアメリカ英語のポケット辞典『英和俗語活法』を編纂し、外資系生命保険会社の大阪支店長に就任後は、国際連盟・リットン調査団の来阪時やホノルルで開催された太平洋貿易会議などで英語通訳官として活躍。大阪実業界の顔役としても知られています。

トークショーでは、信仰と教会との結びつきを軸にし、この人物の足跡、交友関係、人となり、いろんなエピソードについてお話するつもりです。こんな信者がいたことを知ってもらいたいと思っています。

6/26

13:00~15:00

参加費：無料(定員60名)

場所：日本キリスト教団 島之内教会

お問合せ

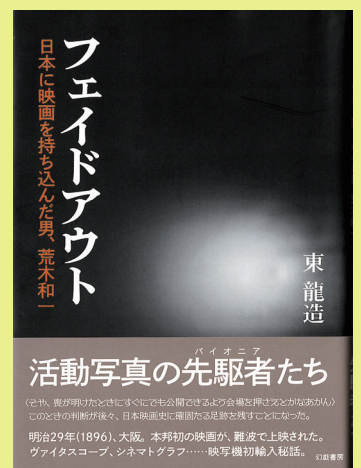
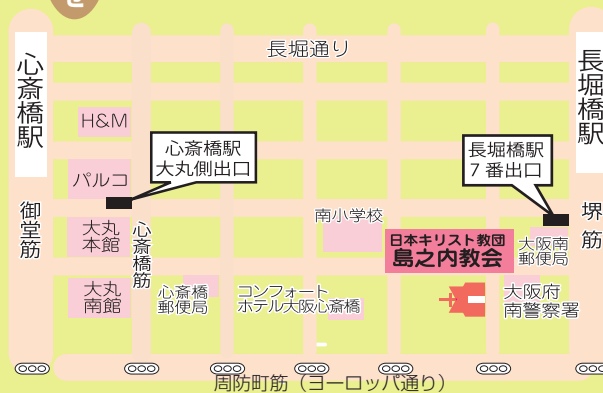
大阪市中央区東心斎橋 1-6-7

Tel.06-6271-8202 牧師 木戸定

コロナ感染防止のため、手指の消毒や検温、マスクの着用にご協力ください。



武部好伸 (たけべよしのぶ)



作家・エッセイスト。1954年、大阪市生まれ。元読売新聞大阪本社記者。日本ペンクラブ会員。関西大学社会学部非常勤講師。映画、ケルト文化、洋酒、大阪をテーマに執筆活動に励んでいる。著書に、「ケルト」紀行シリーズ全10巻(彩流社)、『ぜんぶ大阪の映画やねん』(平凡社)、『ウイスキー アンド シネマ 琥珀色の名脇役たち』(淡交社)、『大阪「映画」事始め』(彩流社)など多数。昨年暮れ、東龍造の筆名で初の小説『フェイドアウト 日本に映画を持ち込んだ男、荒木和一』(幻戯書房)を上梓した。